

～輝きの子育て～

0歳からの子育て

雑誌「致知」2024年12月号に「0歳からの子育て、子育てにも法則がある」との表題で内田信子さんと佐藤亮子さんの対談が載っていました。

内田信子氏 お茶の水大学名誉教授 発達心理学者
NHK教育テレビ「おかあさんといっしょ」番組の開発
佐藤亮子氏 教育評論家 絵本1万冊、童謡1万曲の教育で三男一女を東大理IIIへ進ませ注目を集める

この対談は、大変面白かったので私の興味を引いた一部を抜粋します。

○ 子育ての考え方

(佐藤) 私は子育てを18年限定の尊い営みと思って没頭しました。18歳までは、とにかく手を掛けようと頑張った。18歳から先はもう自分の世界ができるようだらうし、その先は元気によきな道を歩んでくれればいい。

(内田) 佐藤さんは勉強でも直近の目標ばかり追わせるのではなく将来どういう人生を送ってほしいか「自走」できる人に育ってほしいかを考えていらした。

○ 早期教育 英語教育

(内田) 最近、子供の将来のため赤ちゃんの頃から英語学習やCDを聴かせている家庭が多いようです。でも、実は、日本語、モンゴル語、韓国語といったウラル・アルタイ語系を母語とする人たちは、生まれながらに英語を理解することは難しい。

日本からカナダのトロントに移住した日本人家族の子供80人の英語の習得過程や学業成績を10年間にわたって追跡調査した言語心理学者カミンズ氏の報告があります。

幼児期に現地に渡った子、現地で生まれた子は、小さいうちは英語の発音や聞き分けは現地の子供と変わりませんでした。

しかし、小学校に入ると算数以外、読み書き能力が求められる教科の学習についていくなくなるという傾向が見られました。興味深いのは、その反対に一番早く現地人みなみの英語理解力を身に着けたのは12歳ぐらい、つまり小学校卒業前後で日本を離れた子供達だったのです。英語の理解力の水準に達するのに要した期間は概ね一年半でした。

(佐藤) 一年半。小学校レベルまで、日本語を学んだ子の方が、結局、英語の理解力がつきやすい。

(内田) 教育漢字1026字の読み書きやレポート書きなど、母語の土台を耕し考える力を育てておくほうが英語理解力の向上につながるのです。

(佐藤) お店で上手にハンバーガーを頼めても、本格的な英文学は読めない。浅い会話しか出来ない大人になりかねません。人生つまらないですね。

日本語の基礎を身に着けるには12年ほどかかります。6年生までは英語学習はいらないと思います。日本人に生まれたからには、日本語で土台をつくるないとその上になにも載りません。安易に他言語を弄（もてあそ）ぶべきではないと思います。

(内田) 日本語の基礎は絵本や童謡を聴かせてあげれば十分です。

子供が興味を持つ絵本には栄養があります。栄養があるうちは奪ってはいけません。何度も読んで吸収させるべきです。

(佐藤) 同じ絵本を「え～また読むの？」と54回もせがまれたことがあります。

○ 学びには匂がある

(佐藤) 戦争で学校に行けなかった72歳の女性が夜間中学で「あ」の書き方を覚えるのに一週間かかったという新聞記事がありました。読み、書き、計算といった基礎的な勉強は大人になれば覚えられるものではない。学びには匂があります。

○ 押しつけ指導では伸びない

(佐藤) バイオリン教育のスズキ・メソッドの創始者、鈴木鎮一氏の言葉「バイオリンが出来ない子はその子が悪いのではない。子供がちゃんと弾き方を覚える、やりたくなるように指導すべきだ」と。何事も押し付けるだけでは身につかない。親の導き方次第で、子供は伸びるという信念に繋がりました。

○ 子供の人生を分ける親の言葉がけ。3つのH

(佐藤) 子育てって、子供と一对一で向き合ってあげることが大切です。子供は本当に非効率の魂で、無駄と思えることの連続です。親が考え方や姿勢を変えるだけでガラッと変わる気がします。

(内田) 子供に考える余地を与える。子供の気持ちや動きに敏感になって柔軟に調整する。三つのH（褒める はげます 視野を広げる）の言葉をかける。いつも、自分で考え判断する癖が身に付き、将来の目標目指して自発的に学習に取り組むようになります。

○ 外遊びの大切さ（スマホより外遊び）

(内田) 外で遊ぶことで三つの力が育ちます。一つは視力、二つ目は運動能力、三つ目は言葉の力です。いくら言葉を習っても頭に入らない。

(佐藤) 秋の紅葉という言葉を知っていても、外で本物を見ないと分かりません。

○ 隣の子フィルター

(佐藤) 自分の子だと何を言ってもいいと思って酷い言葉を言いがちです。ついつい「こんな点数で良く平気で帰って来られるね」みたいな言葉を出します。常にこの言葉で大丈夫かな、と考えるには「隣の子フィルター」をつかう。
隣の子を想像して、はたしてこんなこと言えるかな？と思って言葉がけをしている。一度かけた言葉は子供の心に刺さり取り消せません。

○ 時間を濃く使う

(佐藤) 今は女性も第一線で働く時代です。どうしても仕事より子供が下になってしまいます。私は時間で割り切るといいと思います。子供が巢立つまでは、家に帰ったら、すぐに家事に走るのではなく20分でも子供の横に座って宿題を見てあげてほしい。時に小さい時期は母親の帰りを待ちわびています。これは、後から取り戻せない貴重な時間です。

○ 待つ 見極める 急がず 急がせず

(内田) 自分はわきに置いて、子供が歩むベースに寄り添って成長を待つ、見極めるという余裕を持つてほしい。決して急がず、急がせず、子供より半歩下がって、子供が一步先に進む手伝いをするのが親の役目です。

以上が対談のごく一部です。すばらしいお二人です。コメントはありません。

参考 対談者の著書 佐藤 亮子「読み聞かせのすごい力」0～7歳
内田 伸子「A.I.に負けない子育て—ことばは子供の未来を拓く」

片野 英司